

3A-022

雨中人物画からみる物質使用障害入院患者の ストレス対処能力について



板橋登子 (神奈川県立精神医療センター)

<http://seishin.kanagawa-pho.jp/treat2/dependence.html>

背景

物質使用障害の治療プログラム

- ・ 対人的な信頼感の低さにより、物質を乱用し孤独にストレスへの対処をせざるをえなかった背景への気づき
- ・ 他者や世の中に対する信頼感のもと、適度な援助希求をしながらのストレス対処を学ぶ

当院の依存症病棟における心理教育(心理講座)

- ・ 描画法「雨の中の私」(雨中人物画)を実施
- ・ ストレスについての講義
- ・ 自身のストレスの捉え方や対処法についての振り返り

雨中人物画

(Draw-A-Person-in-The-Rain-test ; Hammer, 1958)

- ・ 雨の中の人物を描く描画法
- ・ ストレス下での自己イメージやストレス対処を投影
- ・ 杉野(1995) : アルコール依存症者の雨中人物画
- ・ Willis et al.(2010) : 大うつ病・精神病性障害・コカイン乱用・アルコール乱用患者の雨中人物画
- ・ 物質使用障害患者の雨中人物画から、ストレスの強さ(もしくはストレスによる感情の過剰抑制)、外界に対する否定的な感情、ストレス対処の低さが示唆されているが、実証的な研究は少ない。

本研究の目的

依存症専門病棟の入院患者について、

- ・ 初診時実施の自記式心理尺度
- ・ 入院時の心理教育プログラムで実施した雨中人物画
- ・ 退院3か月後の自助グループ参加状況及び断酒断薬状況から、雨中人物画に描かれた特徴とストレス対処のあり方(信頼感と援助希求を基に対処可能かどうか)についての関連を検討

方法

対象者 : 下記①~③を満たす45名

- ① 首都圏にあるA病院の依存症専門外来にて、初診時の自記式質問紙に回答
- ② 初診後3か月以内に、アルコール使用障害もしくは薬物使用障害の診断にて同院の依存症専門病棟に入院
- ③ 2016.3~2017.4の間に、2か月に1度実施される病棟プログラムの心理講座に出席し雨中人物画を描画

対象者の概要

男女別人数 : 男性31名、女性14名
 依存物質 : アルコール32名(AUDIT得点平均24.78±9.94)
 薬物13名 (DAST得点平均11.85±2.97)
 平均年齢 : 45.07±12.33
 平均教育年数 : 12.91±2.84
 平均入院日数 : 79.82±40.11
 退院3か月後継続受診者 : 32名
 (32名中自助グループ参加開始16名)
 (32名中断酒断薬継続16名)

今回の分析に用いた初診時自記式質問項目

- ・ 信頼感尺度成人版(天貝,1995)
→下位尺度「自分への信頼」「他人への信頼」「不信」
- ・ 首尾一貫感覚(SOC)尺度(Antonovsky,1987)
※邦訳版13項目7件法(山崎,1999)

雨中人物画の実施方法

- ・ 心理講座参加者に対して集団実施
- ・ B5画用紙、2B鉛筆、消しゴムを用意、約20分で描画
- ・ 指示 : 雨の中の私、というテーマで絵を描いて下さい
- ・ 描画後に、雨の強さ(大・中・小)、降り方、人物の行動、人物の気分、人物はこの後どうすると思うか、について問うアンケートに記入を求めた

分析方法

信頼感尺度各下位尺度得点 雨除けあり/なし別の比較
 SOC尺度得点 対症のない検定
 雨の強さ大/中/小別の比較
 一元配置分散分析
 退院3か月後自助グループ参加率 雨除けあり/なし別の比較
 退院3か月後断酒断薬継続率 雨の強さ大/中/小別の比較
 X²検定

結果

表1 雨除け有無別の信頼感尺度およびSOC得点の比較

	雨除けの有無		p
	なし(N=13)	あり(N=32)	
自分への信頼	12.15±4.43	12.63±3.06	n.s.
他人への信頼	12.53±5.01	14.44±2.85	n.s.
不信	20.62±5.82	20.13±6.55	n.s.
SOC得点	39.54±9.85	47.50±15.36	p<.05

表2 雨の強さ別の信頼感尺度およびSOC得点の比較

	雨の強さ			p
	大(N=17)	中(N=22)	小(N=6)	
自分への信頼	11.00±3.34	13.14±3.36	14.33±3.01	n.s.
他人への信頼	12.06±3.17	15.05±3.54	14.83±3.76	p<.05 大<中
不信	21.29±6.16	19.36±6.59	20.67±6.09	n.s.
SOC得点	38.18±13.90	50.64±13.43	45.17±11.77	p<.05 大<中

表3 雨除け別自助グループ参加人数

	自助グループ		計
	参加	不参加	
雨除けなし	4	4	8
あり	12	12	24
計	16	16	32

表4 雨除け別断酒断薬人数

	断酒断薬		計
	継続	スリップ	
雨除けなし	3	5	8
あり	13	11	24
計	16	16	32

表5 雨の強さ別自助グループ参加人数

	雨の強さ	自助グループ		合計
		参加	不参加	
大	大	3	8	11
中	中	11	5	16
小	小	2	3	5
計		16	16	32

*p<.05 †p<.10

表6 雨の強さ別断酒断薬人数

	雨の強さ	断酒断薬		計
		継続	スリップ	
大	大	6	5	11
中	中	9	7	16
小	小	1	4	5
計		16	16	32

考察

- ・ 雨中人物画における雨除けの有無や雨の強さが、物質使用障害入院患者においても、ストレス対処能力に関連する可能性
- ・ 雨の強さは、他者への信頼感と関連する可能性
- ・ 退院後の断酒継続は予測しえないが、大降りの雨を描く者は、退院後に自助グループにつながりにくいことが示唆された
- 雨除けなし、大降りの雨が描かれた群に対しては、ストレス対処を学ぶと同時に、他者や集団での信頼感を体験できるような治療の提供が重要と考えられる

【今後の課題】

- ・ 調査を継続し、ケース数を蓄積した上での分析
- ・ 他の疾患群および非依存症群との比較検討
- ・ 退院後の再検査
- ・ 雨と雨除け以外の指標にも着目した分析

引用文献

Hammer, E. F. (1958). *Draw-A-Person-In-The-Rain-Test The Clinical Application of Projective Drawings*. Charles C. Thomas: Illinois.
 杉野健二(1995). アルコール依存症の内観療法前後の「雨中人物画」の変化 臨床描画研究, X, 169-183.
 Willis et al.(2010). Draw-a-Person-om-the-Rain as an assessment of stress and coping resources. *The Arts in Psychotherapy*, 37(3), 233-239.
 天貝由美子(1997). 成人期から老年期に渡る信頼感の発達-家族および友人からのサポート感の影響 教育心理学研究, 45, 79-86.
 山崎喜比古(1999). 健康への新しい見方を理論化した健康生成論と健康保持能力概念 *SOC Quality Nursing*, 5, 825-832.